

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 37	福山市立新市中央中学校
最終更新日		2026年(令和 8 年) 4月 1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域等で、気持ちの良い挨拶ができています。また、教職員が、生徒たちの取組を「自分事」としてとらえることができています。 メディアコントロールの取組では、生徒が自分で考え、「やってみよう」という意識づくりの大切さが伝わってきた。引き続き、自分で気づき、行動する力を高めるように指導・サポートしてほしい。 学力向上へ向けての取組を継続してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査等の結果から、基礎的・基本的な内容が定着してきている。また、家庭及び地域の方の力を結集し、メディアコントロールに取り組んでおり、生活習慣の改善が見られ始めている。 校区で育てたい資質・能力を意識しながら各活動に取り組むことで、校区全体の肯定的評価は、チャレンジ&チェンジする力(88.1%)自己理解力(87.0%)自己表現力(83.4%)といずれも80%を超えており、4月と12月比では、12月比はいずれの項目も上昇している。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 児童生徒や教職員、地元事業者、地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究的・体験的な学習など、様々に取り組んでいく。
--	---	--	---

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>達成感・感動・郷土愛</p>		育成する資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
めざす子ども像	1年	活動をふり振り返り、改善策を考えることができる。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明することができる。	
	2・3年	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。 	自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。	
現状	テーマ	教科の本質			
	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしたい学び 教師が教えること、生徒が決める・取り組むことのバランスをはかる。 各種学力調査の結果の改善及び資質・能力の向上を意識した重点単元での取組を充実させる。 基礎的・基本的な学力を定着させるための学習習慣を確立させる。 			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ意義」を感じられる授業&生徒の「できた」「やりたい」を引き出す授業 自ら「学びたいこと」「学び方」などを決定し、解決に向けて粘り強く取り組む。 他者との対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを活かす。 「分かったこと」「疑問に思ったこと」等を相手や場に応じてわかりやすく説明する。 学力調査の結果分析を基に、「オンライン学習」「家庭学習」の機会を工夫しながら、個別最適な学習活動・学習形態を取り入れる。 学習目標に対する達成状況を、各種テストやポートフォリオを基に振り返らせる。 企業の出前授業や地域との関わりを通じ、学習と実社会の繋がりを考える。 				
	<p>現状</p> <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら課題発見・課題解決する力や校区でつきたい資質・能力を向上しようと努力している。「振り返りをもとに改善策を考えている」生徒 83.0%(4月)⇒78.3%(12月) *昨年度当初の目標値 85%以上 「日々の学習活動は、自分の夢や目標・生き方を考えることに繋がっている」生徒 91.1%(4月)⇒90.3%(12月) *昨年度当初の目標値 90%以上 「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」生徒 83.8%(4月)⇒85.6%(12月) *昨年度当初の目標値 80%以上 「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒 93.6%(4月)⇒92.6%(12月) *昨年度当初の目標値 90%以上 確かな学力を身につけ、安心・安全な学校生活を送るための学習環境づくりを行っている。「他の日と比較し、SNS等の使用時間が20%減である」生徒 52.3%(4月)⇒76.7%(12月) *昨年度当初の目標値 70% <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育実践の手引きに基づき、出前授業やキャリア・パスポートの活用等により、生徒の資質・能力を高める取組を学年会・教科会を中心に仕組んでいる。 各種学力調査の結果に基づき、基礎的・基本的な内容の定着及び主体的対話的な学習へむけて、授業改善に取り組んでいる。 ①朝学習及び定期試験週間、部活動休養日等の放課後等を活用した学習会の実施 ②経営委員会、学びプロジェクトを中心として、生徒や学校運営の情報交流、企画運営を実施 ③アンケート結果や学力調査の結果を教科主任に共有し、教科会で改善策を検討・実施 				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市中央学校

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
2	課題を発見し、自ら考え、学び力を育成する。	★	継続	「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切に、主体的に学ぶ生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア・パスポート等を活用し、目標設定や改善策を考えさせる。 各種学力調査の結果分析をふまえ、「本質的な問い」「個別最適な学習」の設定を充実させ、学力定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「振り返りをもとに改善策を考えている」生徒80%以上(現状値78.3%) 『「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしている』生徒80%以上(現状値83.5%) 								
3	子どもが「学ぶ意義」を感じられる教育活動を実践する。		継続	将来の夢や目標の実現へ向け、自己理解を深め、自分の思いや考えを分かりやすく説明できる子どもを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間での企業との連携や、各教科での出前授業を通じて、学習と実社会との繋がりを実感させる。 重点単元の最終課題に表現活動を取り入れ、特別活動・行事においてソーシャルスキルトレーニングを入れたりして、表現力や集団とかかわる力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の学習活動は、自分の夢や目標・生き方を考えることに繋がっている」生徒90%以上(現状値90.3%) 「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」生徒85%以上(現状値85.6%) 								
3	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で「考える、選ぶ、決める」力を育成する。	★	継続	教職員が生徒一人一人の学びの姿を大切にした教育活動を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や行事などの学校生活の中で、生徒が方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりするような場面を設定する。 週1回「学びプロジェクト委員会」で生徒及び保護者の困り感を把握し、取組方針を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒90%以上(現状値92.6%) 新規長期欠席者の出現率を1%以内(3年間の変化3.7%→0.8%→0.6%) 								
2	生徒及び教職員が元気・笑顔で生活・勤務できる環境を充実する。		継続	生徒及び教職員が主体的に目標設定や改善策を考え、充実感を持って生活する。	<ul style="list-style-type: none"> 新市中央中学校区で週1回「メディアコントロールDay」を設定し、生活習慣を見直す。 経営委員会等で業務改善等の協議を行うとともに自身の資質向上に係る目標・方策を設定し、取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「他の日と比較しSNS等の使用時間が20%減である」生徒75%以上(現状値76.7%) 「日々の仕事の中でやりがいや充実感(達成感)を得られている。」教職員92.6%以上(市平均92.6%) 								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。